

## 2012年第2四半期の純利益は23億ドルと公表

- 2012年第2四半期の税引き後営業利益は19億ドル、希薄化後1株当たり利益は1.06ドル
- 保険事業の営業利益は26%増加して、19億ドル
- 金融受け皿会社 (Maiden Lane III) の資産競売がほぼ完了、AIGは7月にすでに61億ドル受領し、8月半ばに19億ドル受領の予定
- 年初来、AIGは金融受け皿会社 (Maiden Lane III) の資産71億ドルを購入

2012年8月2日 (ニューヨーク発) : AIGは、2012年第2四半期のAIGに帰属する純利益が23億ドル、税引き後営業利益が19億ドルになったと公表しました。これに対して、2011年第2四半期はAIGに帰属する純利益が18億ドル、税引き後営業利益が12億ドルでした。2012年第2四半期の希薄化後1株当たり利益、1株当たり税引き後営業利益はそれぞれ1.33ドル、1.06ドルとなり、これに対して前年はそれぞれ1.00ドル、0.68ドルでした。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシエは以下のように述べました。「AIGの保険事業ならびに航空機リース事業は、当四半期、底堅い利益をあげました。私達の事業の業績と株価は好調に推移し、米国政府は利益を得ながら、AIGへの支援残高を減らすことができました。これには2012年5月の米財務省によるAIG株式の売出しによる、57億ドルの収入も含まれます。ニューヨーク連邦準備銀行 (NY連銀) に対する金融受け皿会社 (Maiden Lane III) における借入残高も、当四半期に全額返済されました。」

「私達は成し遂げたことに誇りを持っており、今回の危機において米国から受けた支援を、利益をつけてすべて返済するという目標の達成に近付いているものと考えます。日々AIGの従業員は、業務を行っている地域社会での名誉回復に向けて大きく前進を続けています。パートナーやお客様からのAIGの名に対する一定の評価を維持してきました。この秋、損害保険事業の名称をチャーティスからAIGに戻します。さらに、サンアメリカ・ファイナンシャル・グループをAIGライフ・アンド・リタイアメントに変更します。」

「チャーティスの第2四半期業績は、事業構成、損害率、引受リスクの改善に向けた、最終的に世界中の営業基盤の本質的価値を高めるような戦略的措置においても進展を示しています。サンアメリカは、消費者にとっても、販売パートナーにとっても魅力がある、革新的な商品の規律ある料率から恩恵を受けています。ユナイテッド・ギャランティは利益をあげ、料率ベースの価格戦略によって、次第に、質の高い借り手に対し融資する貸し手から選ばれるモーゲージ保険会社になってきています。ILFCは高い競争力を維持しています。」

ベンモシエ社長兼CEOは以下のように締めくくりました。「AIGはより活性化し、集中化を進めており、成功を積み重ね、かつ市場やお客様のニーズに応えながら、世界中の保険事業の統合をさらに進めることが可能となっています。」

### 資金管理およびその他の重要な動き

- 普通株式1株当たりブック・バリューは、第2四半期中に5%増加して、60.58ドルとなりました。
- 2012年5月、米国財務省は、AIG普通株式およそ1.89億株 (1株当たり額面2.50ドル) の証券登録された売出しを完了させました。米国財務省が本売出しから得る手取金の額は約57億ドルでした。AIGは本売出しにおいて、1株当たり30.50ドルの売出価格により総額約20億ドルの購入額で、約6,600万株のAIG普通株式を買い戻しました。
- 2012年6月、NY連銀によるメイデン・レーン III (「ML III」) の特定の資産の競売が完了

した結果、NY 連銀に対する ML III における借入残高は全額返済されました。2012 年 7 月、ML III における AIG の持分 50 億ドルは全額返済され、契約上、追加で 11 億ドルの分配がありました。AIG は、将来の ML III 資産の売却による手取金の 33%を受領します。

- 2012 年 6 月 30 日現在、NY 連銀は利益、利息、手数料合わせて 127 億ドルを計上しました。米国財務省は、28.73 ドルの損益分岐点を上回る価格で AIG 株式約 175 億ドルを売却し、これまでのすべての受領金を金融安定化法 (TARP) に基づく資本注入の回収に充てています。2012 年 1-6 月に米国政府は、利益を除いて約 356 億ドルの返済を受けました。
- 2012 年第 2 四半期に、AIG は上位無担保債 15 億ドルを発行し、ILFC は既存の有担保債の借り換えと航空機購入のために、有担保債で 7.53 億ドル調達しました。
- 事業会社からの配当金および債務返済は、2012 年第 2 四半期には合計 13 億ドル、年初来では 39 億ドルとなりました。

### 税引き後営業利益（損失）の内訳 (単位：百万米ドル)

	第 2 四半期	
	2012 年	2011 年
保険事業：		
チャーティス	\$ 936	\$ 783
サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ	933	723
モーゲージ・ギャランティ (その他に計上)	43	12
<b>保険事業合計</b>	<b>1,912</b>	<b>1,518</b>
航空機リース	88	86
直接投資	434	61
グローバル・キャピタル・マーケット	(25)	(160)
AIA の公正価値の増減	(493)	1,521
金融受け皿会社 (ML III) の公正価値の増加	1,306	(667)
支払利息	(474)	(513)
全社費用および消去	(218)	(125)
<b>税引き前営業利益</b>	<b>2,530</b>	<b>1,721</b>
法人税 (経費) / ベネフィット*	(666)	(266)
非支配的持分 - 米国財務省 / NY 連銀	-	(141)
その他非支配的持分	(6)	(74)
<b>AIG に帰属する税引き後営業利益</b>	<b>\$ 1,858</b>	<b>\$ 1,240</b>

\*2012 年は、繰延税金評価引当金の減算 1,277 ドルを除きます。これは、FIN 48 による不確実な税務ポジションに係る費用 3.31 億ドルで一部相殺されています。

## チャーティス

チャーティスの 2012 年第 2 四半期の営業利益は、前年同期が 7.83 億ドルであったのに対して、9.36 億ドルの利益となりました。第 2 四半期中、チャーティスは事業ポートフォリオの改善と、資本力の維持に向けた進展を示しました。チャーティスは、付加価値の高い事業や地域の成長、料率トレンドの改善から恩恵を受けました。2012 年第 2 四半期の業績には、異常災害損失 3.28 億ドルと、前年の支払準備金による正味でのマイナスの影響 1.17 億ドルが含まれていますが、正味での支払準備金 9,400 万ドルに対する割引率の有利な変動で一部相殺されました。AIG が継続的に注力している資本管理の一環として、チャーティスは当四半期に、5.19 億ドルの現金配当金を親会社 AIG に支払いました。

2012 年第 2 四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が 104.0 であったのに対し、102.4 となりました。2012 保険事故年度第 2 四半期のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと、前年同期が 97.7 であったのに対し、98.3 となりました。異常災害損失の減少、付加価値の高い事業へのシフト、料率の改善、引受リスクによって損害率は改善しましたが、費用の増加で相殺されました。2012 年第 2 四半期の経費率は 33.5 で、前年同期より 3.5 ポイント上昇しました。収益性が高い商品を増やし、事業構成の変更および直接販売の推進に関連した取得費用の増加により、経費率はおよそ 1.4 ポイント押し上げられました。残りの上昇の主な要因はシステムや人材への戦略的投資で、AIG は今後の効率性上昇につながると考えています。

2012 年第 2 四半期の正味収入保険料は、91 億ドルであり前年同期比で 0.8%減少、為替の影響を除くと 0.1%減少しました。コマーシャル・インシュアランス事業の保険料は現地通貨建てでは、前年同期比 2.1%減少しました。資金効率を高めるために損失に敏感な事業の再編を続けたことが、この減少のうち 1.3%を占めました。残りの減少は主に、特に米国での賠償責任保険におけるリスク選択の改善に向けた措置によるものです。チャーティスは戦略的目標に沿って、成長国でコマーシャル・インシュアランス事業を拡大しました。コンシューマー・インシュアランス事業の保険料は、現地通貨建てでは 3.4%増加しました。この主な要因となったのは、主要な事業ラインにおける成長や、経済成長を続ける国やその他の国際市場への浸透です。コンシューマー・インシュアランス事業は、マルチ販売チャネル戦略の一環として、引き続き直接販売に重点を置きました。

コマーシャル・インシュアランス事業の 2012 年第 2 四半期の営業利益は 5.94 億ドル、コンバインド・レシオは 102.3 となりました。これに対して、2011 年第 2 四半期の営業利益は 6.29 億ドル、コンバインド・レシオは 103.4 でした。2012 保険事故年度第 2 四半期のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと 96.7 となり、これに対して 2011 年第 2 四半期は 95.4 でした。異常災害損失の減少、付加価値の高い事業へのシフト、料率の改善、引受リスクの改善による損害率の改善は、費用の増加で一部相殺されました。2012 年第 2 四半期の経費率は 28.5 で、前年同期より 5.2 ポイント上昇しました。主にコマーシャル・インシュアランスの事業構成の変更による取得費用の増加により、経費率は約 3.1 ポイント上昇しました。残りの上昇は主に、人材への戦略的投資に関連するものでした。

コンシューマー・インシュアランス事業の 2012 年第 2 四半期の営業利益は 1.92 億ドル、コンバインド・レシオは 97.7 となりました。これに対して、2011 年第 2 四半期の営業利益は 5900 万ドル、コンバインド・レシオは 100.9 でした。2012 保険事故年度第 2 四半期のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと 97.6 となり、これに対して 2011 年第 2 四半期は 98.0 でした。異常災害損失の減少、付加価値の高い事業へのシフト、料率の改善、引受リスクの改善によって、損害率は改善しました。2012 年第 2 四半期の経費率は 38.5 となり、前年同期比 0.4 ポイント低下しました。

## サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ

サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの2012年第2四半期の営業利益は、前年同期が7.23億ドルであったのに対して、9.33億ドルとなりました。2012年第2四半期業績は、2011年中の現金再配分に伴う基礎スプレッドの改善と、規律ある貸出金利の管理により、プラスの影響を受けました。オルタナティブ投資の収益減少、払込請求および入札の収入の減少により、一部相殺されました。さらに2011年第2四半期業績には、金融受け皿会社（Maiden Lane II）の評価損、死亡保険の支払準備金見積り額1億ドルが含まれています。

2012年第2四半期の正味投資利益は、前年同期から基本的に横ばいで25億ドルでした。2012年第2四半期の基礎投資利回りは5.50%となり、これに対して前年同期は5.41%でした。これは2011年に余剰現金を再投資したことを反映しています。このような利回りの向上と、サンアメリカの規律ある貸出金利の管理によって、グループ・リタイアメント商品および個人向け定額年金の基礎正味投資スプレッドは改善しました。

2012年第2四半期の収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期の63億ドルに対して、計54億ドルとなりました。これは、低金利環境のため、個人向け定額年金預かり資産が大幅に減少したことによるものです。個人向け変額年金、個人向けミューチュアル・ファンドは、低金利の影響をあまり受けないため、大幅に改善しました。グループ・リタイアメント商品は、前年同期比わずかに増加しました。これは主に、個人繰越し預かり資産が増加したことによるものです。個人向け変額年金預かり資産は、2012年第2四半期に前年同期比51%増加して、合計13億ドルとなりました。これは、革新的な商品の強化と、変額年金の主な競争相手が変額年金事業を縮小する中で、サンアメリカの販売組織の拡大によるものです。販売の拡充に引き続き重点を置いた結果、個人向け生命保険の販売は当四半期、当前期比で3%増加しました。低金利環境であるにもかかわらず、全体としては正味の資金フローはプラスでした。

2012年第2四半期にサンアメリカは、保険会社子会社からの配当金支払いを通して親会社AIGに8.07億ドルの流動性を提供しました。以前に計画した2012年の返済よりも速いペースです。

2012年6月30日現在の運用資産は、前年同期の2,549億ドルに対して2,678億ドルとなりました。

## 航空機リース事業

ILFCは、前年同期が8,600万ドルの営業利益を計上したのに対し、2012年第2四半期は8,800万ドルの営業利益を計上しました。2012年第2四半期に、ILFCはリース料収入11億ドルを計上しましたが、これは前年同期から基本的に横ばいでした。これは古い機体の低料金での再リース、2011年12月以降の航空機の回収、この1年間、新機の納入予定が限られていたことを反映していますが、2011年第4四半期にILFCが取得したエアロタービンからの収入によって相殺されました。

ILFCは2012年第2四半期に、7,500万ドルの減損費用を計上しました。これは主に、借主から期限前に返却された機体、残存価値保証1件、機体の売却あるいは部品故障の可能性に関するものです。ILFCは、2012年第2四半期、既存の有担保債の借り換えと航空機購入のために、有担保債で7.53億ドルを調達しました。

## モーゲージ・ギャランティ

AIG傘下の住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション（UGC）は、前年同期の1,200万ドルの営業利益に対して、2012年第2四半期には4,300万ドルの営業利益を計上しました。これは、前年の動向が良好であったことと、新たな延滞が17%減少したことを反映しています。

正味収入保険料は、前年同期の1.91億ドルに対して、2.12億ドルとなりました。国内の第一抵当権付保険契約の新規引受けは、前年同期が31億ドルであったのに対して、85億ドルとなりました。この主な要因は、UGCのリスク評価およびパフォーマンスに基づく料率設定を市場が受け入れるようになったこと、特定のチャネルでの販売重視の姿勢を強めること、競争相手の撤退による恩恵で

す。高い質を保ち、新規契約の平均 FICO スコアは 759、平均借入金比率は 91%でした。

第一抵当権付保険契約の支払の延滞は、2011 年 6 月 30 日の 99,000 件から減少し、2012 年 6 月 30 日には 71,000 件となりました。これは主に、2011 年第 4 四半期から、UGC が貸し手と連絡をとり、長期の延滞について支払いを請求するよう求める措置を取ったためです。同期間中に UGC のポートフォリオの正常貸出金は、5%増加して 645,000 件となりました。これは新規引受高の増加を反映しています。

## その他の事業

AIG のその他の事業の営業利益は、前年同期が 1.14 億ドルであったのに対して、2012 年第 2 四半期には 6.64 億ドルを計上しました。営業利益には、様々な法定偶発事象に関連した、税引き後で約 7.19 億ドルの法定未払金の税引前の増加は含まれていません。

2012 年第 2 四半期に AIA 普通株式の公正価値は、4.93 億ドル減少しました。金融受け皿会社 (ML III) における AIG の持分の公正価値は、2012 年第 2 四半期に 13 億ドル増加しました。NY 連銀が ML III 資産を売却したことも、その一因です。

## カンファレンス・コール

AIG は、明日 2012 年 8 月 3 日午前 8 時 (米東部時間) より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト (<http://www.aig.com>) でオンタイムに聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

AIG の補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####

## 将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール (カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます)、決算報告、決算補足資料には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。米国財務省 (「財務省」) が保有する AIG 株式の売却時期、ILFC に対する AIG 持分の現金化、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の見解、目標、仮定や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、格付け機関の動向、市場環境の変化、異常災害の発生、重要な法的手続き、AIG が対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、地方債ポートフォリオなど AIG の投資ポートフォリオにおける集中、損害保険の引受けならびに引当金に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、繰延保険獲得費用 (DAC) の復元可能性に関する判断、ILFC の機体価値の復元可能性に関する判断、2012 年 6 月 30 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書パート I 項目 2 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」) およびパート II 項目 1A (「リスク要因」)、またそれぞれ 2012 年 2 月 27 日、2012 年 3 月 30 日に提出されたフォーム 10-K/A による修正 1、修正 2 で修正された 2011 年 12 月 31 日末の AIG のフォーム 10-K による年次報告書のパート I 項目 1A (「リスク要因」)、さらにパート II 項目 7 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」)、また 2012 年 5 月 4 日に提出された AIG のフォーム 8-K による臨時報告書添付書類 99.2 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」) で取り上げられている事項などがあります。AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

す。

## AIG について

AIG グループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130 以上の国・地域でサービスを提供しています。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業を米国で展開しています。持株会社 AIG, Inc.の株式はニューヨークと東京の各証券取引所に上場されています。

#####

## 規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、最も良く表し、最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト(<http://www.aig.com/>)の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2012 年第 2 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

AIG は、税引き後営業利益（損失）によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解することができると考えています。税引き後営業利益（損失）は、非継続事業の純利益（損失）、事業売却による純損失、事業売却による純利益、従来の FIN48 に係る項目、訴訟損失引当金、繰延税金評価引当金の費用および減算、NY 連銀前払委託手数料資産の償却、生前給付債務をヘッジするためのサンアメリカの債券の公正価値の変動、給付積立金の増減、繰延保険獲得費用（DAC）、獲得事業価値および販売促進資産の給付（償却）、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、また正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）を除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益（損失）を除きます。AIG に帰属する純利益（損失）の税引き後営業利益の調整については、9 ページを参照してください。

また、場合によって、収入、純利益、営業利益および関連する業績指標は、発生した損失について得られていない税法上の恩典による影響、一時的でない減損の認識、事業再編関連活動、パートナーシップからの利益、その他利益に対するプラス要因、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、異常災害関連損失および前年の動向、割引率の変動、アスベスト関連の損失、前年の動向に関連する返還または追加保険料、外国為替レート、航空機の減損を除外して示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、継続事業の業績と基礎的な収益を明らかにして、投資家の皆様が AIG の基本的な事業それぞれの業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。そのような指標が開示されている場合、GAAP 型の税引き前利益への調整が示されています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預かり資産およびその他の収入、生命保険 CPPE 売上高）には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。これには、生命保険収入保険料、年金契約およびミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。AIG は、保険業界において業績の標準的な測定基準であり、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由から、この財務数値を用いています。

2012 年第 2 四半期には税引き後営業利益から、主に特定の既存の企業訴訟に関連する特定の訴訟費用、また AIG の継続事業業績に反映されていない不確実な税務ポジション（FIN 48 による）に係る特定の引当金を除いてあります。2012 年第 1 四半期に AIG は税引き後営業利益（損失）の定義を見直し、サンアメリカの生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連する給付金積立金の増加を除くこととしました。AIG は、このような税引き後営業利益（損失）の定義の見直しで、ヘッジに関連するボラティリティやキャピタル・ゲインを得るための活動を業績から除くことで、サンアメリカの事業の業績をより良く評価し、把握することができると考えています。AIG は、この見直し後の税引き後営業利益（損失）の定義を、AIG がサンアメリカの事業の業績をどのように評価しているかを示す指標としてより良いものと考えています。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト\*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2012年	2011年	増減(%)	2012年	2011年	増減(%)
<b>チャーティスの保険事業：</b>						
正味収入保険料	\$ 9,095	\$ 9,167	(0.8)	\$ 17,915	\$ 18,333	(2.3)
正味既経過保険料	8,820	9,033	(2.4)	17,508	17,684	(1.0)
請求および請求調整費用	6,079	6,680	(9.0)	11,988	14,436	(17.0)
引受経費	2,958	2,712	9.1	5,917	5,210	13.6
事業損失	(217)	(359)	39.6	(397)	(1,962)	79.8
正味投資利益	1,153	1,142	1.0	2,376	2,321	2.4
<b>営業利益</b>	<b>936</b>	<b>783</b>	<b>19.5</b>	<b>1,979</b>	<b>359</b>	<b>451.3</b>
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	23	43	(46.5)	(112)	93	-
その他の利益	2	-	-	4	-	-
<b>税引き前利益</b>	<b>\$ 961</b>	<b>\$ 826</b>	<b>16.3</b>	<b>\$ 1,871</b>	<b>\$ 452</b>	<b>313.9</b>
損害率	68.9	74.0		68.5	81.6	
経费率	33.5	30.0		33.8	29.5	
コンバインド・レシオ	102.4	104.0		102.3	111.1	
<b>サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの事業：</b>						
収入保険料の売上	\$ 622	\$ 662	(6.0)	\$ 1,227	\$ 1,283	(4.4)
保険証券発行手数料	674	682	(1.2)	1,365	1,366	(0.1)
正味投資利益	2,521	2,461	2.4	5,406	5,215	3.7
その他の利益	-	-	-	-	-	-
収入合計	3,817	3,805	0.3	7,998	7,864	1.7
給付および費用	2,884	3,082	(6.4)	5,754	5,970	(3.6)
<b>営業利益</b>	<b>933</b>	<b>723</b>	<b>29.0</b>	<b>2,244</b>	<b>1,894</b>	<b>18.5</b>
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動、支払利息を除く	70	-	-	51	-	-
給付金積立金の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA	(552)	(48)	-	(516)	(32)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	326	91	258.2	(140)	(129)	(8.5)
<b>税引き前利益</b>	<b>777</b>	<b>766</b>	<b>1.4</b>	<b>1,639</b>	<b>1,733</b>	<b>(5.4)</b>
<b>航空機リース事業：</b>						
収入	1,123	1,118	0.4	2,276	2,256	0.9
費用	1,035	1,032	0.3	2,069	2,053	0.8
<b>営業利益</b>	<b>88</b>	<b>86</b>	<b>2.3</b>	<b>207</b>	<b>203</b>	<b>2.0</b>
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	(2)	1	-	(1)	4	-
<b>税引き前利益</b>	<b>86</b>	<b>87</b>	<b>(1.1)</b>	<b>206</b>	<b>207</b>	<b>(0.5)</b>
<b>その他の事業、営業利益</b>						
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン調整前 税引き前利益	(55)	112	-	2,264	(1,450)	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	(61)	(25)	(144.0)	356	(460)	-
会社間連結・消去調整 (a)	43	28	53.6	(1)	2	-
<b>継続事業のタックス・エクスペンス (ベネフィット) 調整前利益</b>	<b>1,751</b>	<b>1,794</b>	<b>(2.4)</b>	<b>6,335</b>	<b>484</b>	<b>-</b>
タックス・エクスペンス (ベネフィット)	(593)	(296)	(100.3)	555	(522)	-
<b>継続事業の純利益</b>	<b>2,344</b>	<b>2,090</b>	<b>12.2</b>	<b>5,780</b>	<b>1,006</b>	<b>474.6</b>
<b>非継続事業の利益 (損失)、税引き後</b>	<b>(5)</b>	<b>(37)</b>	<b>86.5</b>	<b>8</b>	<b>2,548</b>	<b>(99.7)</b>
<b>純利益</b>	<b>2,339</b>	<b>2,053</b>	<b>13.9</b>	<b>5,788</b>	<b>3,554</b>	<b>62.9</b>
<b>控除：</b>						
<b>非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：</b>						
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	-	141	-	208	393	(47.1)
その他	7	64	(89.1)	40	9	-

非支配的持分に帰属する継続事業の純利益	7	205	(96.6)	248	402	(38.3)
非支配的持分に帰属する非継続事業の純利益	-	12	-	-	19	-
非支配的持分に帰属する純利益	7	217	(96.8)	248	421	(41.1)
<b>AIG に帰属する純損失</b>	<b>2,332</b>	<b>1,836</b>	27.0	<b>5,540</b>	<b>3,133</b>	76.8
<b>AIG 普通株主に帰属する純損失</b>	<b>\$ 2,332</b>	<b>\$ 1,836</b>	測定 せず	<b>\$ 5,540</b>	<b>\$ 2,321</b>	測定 せず

## 財務ハイライト (続き)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2012年	2011年	増減(%)	2012年	2011年	増減(%)
<b>AIG に帰属する純利益</b>	\$ 2,332	\$ 1,836	27.0 %	\$ 5,540	\$ 3,133	76.8 %
<b>AIG に帰属する税引き後営業利益 (損失) の調整 (税引き後)</b>						
非継続事業の利益 (損失)	(5)	(49)	89.8	8	2,529	(99.7)
事業売却の純損失	-	(1)	-	(2)	(48)	95.8
事業売却の利益	-	10	-	-	16	-
従来 of FIN 48 による項目	(331)	-	-	(331)	-	-
訴訟損失引当金	(467)	-	-	(467)	-	-
繰延税金資産評価引当金 (費用) / 減算	1,277	588	117.2	1,566	59	-
NY 連銀前払委託手数料資産償却	-	-	-	-	(2,358)	-
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動	45	-	-	33	-	-
給付積立金の増減と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA	(359)	(28)	-	(336)	(17)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	300	51	488.2	101	(390)	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益 (損失)、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) を除く	14	25	(44.0)	13	13	-
<b>AIG に帰属する税引き後営業利益</b>	<b>\$ 1,858</b>	<b>\$ 1,240</b>	49.8	<b>\$ 4,955</b>	<b>\$ 3,329</b>	48.8
<b>普通株式 1 株当たり利益 (損失) - 希薄化後 :</b>						
<b>AIG 普通株主に帰属する純利益</b>	<b>\$ 1.33</b>	<b>\$ 1.00</b>	33.0	<b>\$ 3.05</b>	<b>\$ 1.37</b>	122.6
<b>AIG 普通株主に帰属する税引き後営業利益</b>	<b>\$ 1.06</b>	<b>\$ 0.68</b>	56.7	<b>\$ 2.73</b>	<b>\$ 1.96</b>	39.1
<b>AIG 株主資本の普通株式 1 株当たり帳簿価額 (b)</b>				<b>\$ 60.58</b>	<b>\$ 45.97</b>	31.8 %
<b>株主資本利益率—税引き後営業利益 (c)</b>	7.7%	6.6%		10.3%	9.0%	

## 財務ハイライト特記事項

\* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益 (損失) を含んでいます。
- AIG 株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- その他の包括利益累積額を除く、調整済み株主資本を用いて算出しています。